



～活動の芽を育てよう！Yes！はじまりの合図～

eyes *あいず*



川口 明さん

子どもの頃からの 経験を活かして

子どもの頃、アウトドア好きのお父さんの影響で、山や川へ行く機会が多かったという川口さん。

「小学2年生の時には、大分県の久住山を登頂し、中学では野外活動部に所属していました。高校では別の部活に所属したんですが、レクリエーションについて学ぶため、介護福祉の専門学校に進学しました」

専門学校卒業後は、介護福祉士として働いていたそう。

「初めは、介護福祉士として、施設でレクリエーション支援をしていたんですが、自然体験活動のサポートボランティアとしてイベントに参加したのをきっかけに、介護福祉施設を辞めて『特定非営利活動法人しぜんあそまなくらぶ』の設立、運営に携わってきました」

自分の好きな自然体験活動が、楽しみながらボランティアをするということに活かされ、それが徐々に運営サイドの視点へと変わっていったという。

「年間約100名程度受け入れているボランティアスタッフが、参加しやすい態勢作りや、広報を行ってきました。例えば、ボランティアスタッフも活動を楽しめるように、企画段階で、企画者自らも楽しくて、安全だと

活動への一歩は、できる・できないの判断ではなく、 自分がそれを“やりたい”かどうか

今回、表紙を飾っていただいた川口さん。あいぽーとでは、家族そろって活動をされている姿をよく見かけます。そんな川口さんの活動とは・・・

思える活動を考えています。それから、携帯でも気軽にアクセスできるブログサイトには、ボランティアスタッフが楽しそうに活動している写真を掲載しているんです。その中では、ビジュアル的に見やすいような工夫をしています。この影響なのか、県外からのボランティア参加者も増えました」

身近にできる

エコ活動

あいぽーとでは『あそまなくらぶ』のエコおもちゃ作り講師として活動されている姿を見していました。

「エコおもちゃは、家庭にある、普通であればゴミとして処分されるものを利用することで、環境保全に役立ち、低コストで、子どもと一緒に簡単に作ることでできます。昨年からは、エコおもちゃ作りの活動を『あそまなくらぶ』で始めました。私自身は、先日『あそまなくらぶ』を退職したんですが、エコおもちゃ作りの活動は続けていくつもりです。それから、『育児を経済の観点から考えよう』という講話もする予定です」

自然が大好きで、環境に良いものや、素材にこだわっている、とってもナチュラルな川口さんのさらなる活躍に、これからも注目です。

家族と共に：

今回、表紙に掲載させていただきつかけとなったのが、『家族』での活動でした。あいぽーとに家族3人でいらっしやることに非常に興味を持っていました。

「妻とは、ボランティアの活動を通して知り合いました」と川口さん。

「大学生の時、夏休みのキャンプリーダーをしたことをきっかけに、団体活動の企画にも携わってきました」と妻の裕美子さん。

自然体験活動などの、様々な経験から、裕美子さんが思うことや、実践中のエコについて教えていただきました。

「私たちが活動していた『あそまなくらぶ』で得た知識は、子どもがいるお母さんたちに持っていて欲しい知識なんです。様々な活動を通して感じたこ

とを、たくさんの人と共有したいんです。家族ぐるみの付き合いの中で、お互いの知識を共有できたらいいなって。家族で仕事をするというのに、メリットが必ずあるはずなんですよね。それから、私のプチエコは、ダンボールの中に、土と生ゴミを入れ混ぜて堆肥にする、ダンボールコンポストというものです。簡単にできるので、やってみてください」

やりたいことがあるときは、人に会って話をしてみることがから始めるという裕美子さんは、母親の視点で新しい活動を生みだしてくれそうです。



左から 川口 明さん 裕美子さん 風己弥くん



エコおもちゃ作り体験（あいぽーと文化祭にて）

ヨガ教室の風景



ボランティアメンバーの方たちと



村田文子 さん



感謝の心を持って

月に2回、高齢者のためのヨガや脳トレーニング、コーラスなどをして、自身が引きこもりにならないよう、活動に励む『生き生きクラブ』

その活動をボランティアで、お手伝いされている村田さんに、お話を聞きました。

活動を始めたきっかけは何ですか？

昔、体が病弱だった時に、周りの人たちから色々とお話をもらいました。その恩返しと思って、ボランティアを始めたんです。

家族の理解を得るために、何か努力をされていますか？

特にはありませんが、出来る事はきちんとします。朝食は必ず作り、家族との会話を大切にして、感謝の気持ちを伝えるようにしています。

「今日も1日お世話になりました」と言ってお礼を言います。

ボランティアを始めたという方に、メッセージをお願いします。

ボランティアを始めたことで、家族との交流が増えました。私が、活動の準備があるときは手伝ってくれます。それから、ボランティアをしていることで、人の輪の相乗効果を得ることが出来ます。活動の時に花を届けてくれたり、活動を休まれた方に連絡を取ってくれたりすると、皆の気遣いが

とても嬉しく、感謝しています。皆、完璧に幸せという訳ではありません。どこかに問題を抱えていたりもするけれど、それを話したり、聞いたり、ボランティア以外にも皆で支え合っています。

「ボランティアには、私生活で体験できないものがあります。私もボランティア活動によって、育てられているんですね」

周りの人々への感謝を忘れない村田さん。やさしい気持ちになれるお話でした。

キラキラ笑顔と

出会う場所

あいぽーとを拠点に活動する、妊娠・出産・子育て情報ネットワーク『うみつぎ』の中で、最近よくお見かけするようになった、後藤かよ子さんに、お話を聞きました。



後藤かよ子 さん

どのようなボランティアをされていますか？

『でんえもん』という絵画教室をしています。3歳以上の子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしていて、展示会に出展したり、写生会に参加したりと、楽しいこと盛りだくさんの教室です。

それから、あいぽーとに来ていたときに『うみつぎ』の代表である、田代佳織さんと出あって、意気投合したんです。田代さんと色々な活動をしているうちに、お誘いを受け、『うみつぎ』でも活動していくことになりました。就学前の子どもたちを対象に、保育士さんたちと『うみつぎキッズコミュ』という子ども向けのプログラムを企画しています。音楽・食育・アートなどを組み込んでいて、私は、その中でのアート担当です。毎回、お母さんたちに好評で、リクエストが多く、とても嬉しいです。

担当を任された時の気持ちはいかが？

子どもたちに、絵を描くことを大好きになって欲しいので、『任せろっ！』って感じでした。

アート教室の準備中 おかよ先生



『キッズコミュ』を始めてみて、どうですか？

未就学児対象のアート教室を開いたのは初めてだったんですが、思いきって挑戦して良かったです。子どもたちと、どんなことをしようかなとか、常に考えています。全身を使ってできるアートな活動になるようにとか、色々。初めは泣いていた子が、活動を通してキラキラした笑顔に変わっていくのを見ていて、嬉しくなります。

後藤さん自身も、子育て真っ最中ですか？

4歳と1歳7ヶ月の男の子がいます。午前中にボランティア活動をして、午後からは、デザインの仕事や、制作をしています。



お姫さまドレスの製作中

お子さんたちとのコミュニケーションは、どのようにされていますか？

子どもたちが起きる時と、寝る前に『好き好きタイム』をしています。子どもって、ホントに可愛いですよね。

子どもたちの話をされるときの後藤さんもキラキラ笑顔で、ボランティア活動の楽しさ、子育ての楽しさが伝わってくるお話でした。

〒862-0971 熊本市大江5丁目1番1号 熊本市総合保健福祉センター ウェルパルクまもと1階

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと

電話 096 (366) 0168 FAX 096 (366) 8830

〒860-8601 熊本市手取本町1番1号 熊本市役所12階

熊本市市民協働推進課

電話 096 (328) 2036 Eメール shiminkyoudou@city.kumamoto.lg.jp

eyesとは…

みなさんの目（視点・感性・思い）から生まれる活動（芽）に焦点をあてる情報誌です。